

## 下肢への浅部加温後に難治性の皮膚潰瘍を生じた 1 例

産業医科大学病院 放射線治療科 山口晋平、大栗隆行  
戸村恭輔、矢原勝哉  
臨床工学部 村上 基博  
看護部 松岡 さなえ

症例は 70 代女性で、2 年前に右下肢の有棘細胞癌(cT3N0M0、stage III)に対して、浅部加温法による電磁波温熱療法を併用した根治的放射線治療を施行した。放射線治療は総 70Gy/35 分割の電子線照射を施行した。基礎疾患に再生不良性貧血および慢性腎不全を認めた。初回の温熱治療後、腫瘍近傍の皮膚に水疱を生じた後に、約 1 週間の経過で壊死・潰瘍形成を認めたため、以降の温熱療法は中止とした。抗生剤、デブリードマンおよび陰圧閉鎖療法が施行され、約 1 年かけて上皮化を認めた。腫瘍の再発・転移は認めていない。今回、浅部加温後に難治性皮膚潰瘍を生じた稀な 1 例を経験した。再生不良性貧血や下肢血流低下の合併があり発症に関連したと推測され、文献的考察を加えて報告する。